

結核緊急事態宣言

結核は

怖い病気です

結核はかつて「国民病」と呼ばれるほど、患者・死亡者数が多かった病気です。その後、薬の発達や生活水準の向上で急速に減少しましたが、現在、復活の兆しをみせています。毎年、国内で約四万人の新患者が発生し、約三千人のかたが命を落としています。結核は今、日本で最大の感染症です。

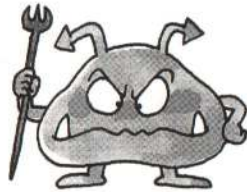
お問い合わせは
保健センター ☎42-9055

症状

結核の初期症状はかぜの症状とよく似ています。せき、たん、血たん、胸痛、発熱、だるさが2週間以上続くようでしたら要注意です。おかしいと思ったらすぐに受診しましょう。肺で増殖した菌は、リンパ節や胸膜を侵し、血液の流れに入って全身に送られることからほとんどの臓器が結核に侵されます。結核性の脳膜炎や胸膜炎、腹膜炎などの症状を引き起こします。結核は命にかかわる病気なのです。

どうして結核患者がまた増えてきたの？

たとえば、結核菌に感染しても、体内の免疫によって菌の増殖が抑えられている場合には、発病しません。発病するのは十人のうち一〜二人です。ただ、結核菌は強い菌で、免疫の力だけでは、完全に殺すことができません。体内に残った結核菌は休眠した状態で生き続けます。日本では戦前に結核菌がまん延し、ほとんどの人が感染していました。その若いころに感染し、発病しなかった現在の中高年のかたは高齢化に伴い、免疫力が低下しています。そのため、菌が再び活動を始めて発病するケースが増えているのです。



発病

感染後、数か月から2年位の間に発病する初感染発病は、年齢の低い子どもや若者に多い病気です。特に乳幼児は、抵抗力も弱いので重症になる危険性も高くなります。感染してから5年以上たって発病する既感染発病は、中高年から高齢者に多くみられます。これは若いころに感染し、長い間眠っていた菌が、歳をとって抵抗力が落ちてきたことで再び活動を始めることから発病します。



予防と早期発見

□BCG接種

結核予防で有効なのがBCG接種です。BCGは毒力の弱い生きた結核菌です。ツベルクリン反応検査で陰性の場合、BCGを接種し、体に免疫を与えるわけです。重症の結核にかかりやすい乳幼児（生後3か月〜12か月）に接種することで発病率を低く抑えることができます。

□X線検査（レントゲン撮影）

ほとんどの結核の病巣は肺に現われますので、胸部のX線検査が行われます。X線検査は、結核の早期発見に極めて有効で、同時に肺がんを見つけることもできます。



感染

たんのなかに結核菌が出るようになった重症の結核患者が、せきやくしゃみをする、菌が周囲に飛び散ります。この菌を吸い込むことによって感染します（飛沫感染）。ただ、菌を吸い込んだ人すべてが感染するわけではありません。肺までに行く途中で鼻やのど、気管支の粘膜に菌がひっかかり体外に出されるためです。感染するのは、この菌が肺の細胞に定着し、増殖するときです。

治療

現在は結核によく効く薬ができ、3〜4種類の薬を6〜12か月間服用するだけで、治すことができるようになります。菌を排出している間は入院が必要ですが、それ以外は通院だけで治療することができます。よい薬でも、確実に服用しなければ効果はありません。薬を飲むと症状が消えることもあり、服用をやめたかたがいますが、治らないうえに、薬が効かない耐性菌を発生させます。

結核予防

要点チェック

- 長引くせきは赤信号
- うつらぬうちにBCG
- 進んで受けよう健康診断
- 患者が出たらそろって検診
- 薬はやめず継続的に
- 赤ちゃん高齢者は特に注意